

## 19年度 学校経営方針

こんな学校に（学校像）

本校は伝統的に常に前向きに進む学校である。教員一人一人が自立し、常に緊張感を持ちながら、教師と子どもが一丸となって教育活動に取り組み、創意と意欲と活気にあふれた学校にしたい。また、全教職員が、教育目標を具現化するために、共通理解を持ちながら、実現を目指していく事が大事で、子どもにとっても学校に来ることが楽しく、居場所を感じ、充実感がある学校でありたい。子どもと共に学び、子どもと共に伸びる学校でありたい。

気持ちよい元気なあいさつができる学校

教師と子どもが力を合わせ教育活動に取り組み、創意と意欲と活気にあふれた学校

一人一人の個性が生かされ、お互いが助け合い、励ましあい、潤いと温かみのある学校

報告、連絡、相談が徹底し、職員の連携、和がある学校

職場に高まりあう空気があり、信頼に値する学校

不登校傾向や問題行動をおこす子どもにも全教職員が共通理解をもち、支援を行う学校

目標に対しては、達成感をお互いが持ち、評価をしあう学校

地域と共に歩む学校

### 2 こんな学校にしたい（教育目標の具現化）

- ・生活が充実し、知的好奇心を持ち、意欲にあふれた子どもを育てる。
- ・自分の思いを表現できる力をつけ、人に伝えることができる子どもを育てる。
- ・自分で考え、自分で判断できる力を身につけ、進んで学ぼうとする子どもを育てる。
- ・学んだ事を自分の生活に生かそうと努力する子どもを育てる。
- ・しっかりした規範意識を持ち、自分の言動、行動に責任を持つ子どもを育てる。
- ・すぐにあきらめないで、最後までねばり強くやりとげる子どもを育てる。
- ・人権感覚を持ち、自分も他人も大切にできる豊かな心を持つ子どもを育てる。
- ・心身共に健康で、体力をつけることを自覚しながら、前に進む子どもを育てる。

### 3 こんな教師に

児童理解に努め、児童の豊かな心を育み、子どもと共に伸びる教師

・子どもの意見や悩みに耳を傾ける。つまずきの早期発見、早期対応。

・校内での連携。家庭との連携（連絡・家庭訪問）

子どもとのかかわりを大切にし、一人一人のよさを引き出し、伸ばそうと努力する教師

豊かな発想やアイデアを出し、健康で明るく、実践力のある教師

・学級や学年の取り組みや校内行事等工夫や充実を図る。

・子ども達に根負けしないで繰り返し継続し、詰めをつけ、評価して意欲化を図る。

・自分の持ち味を生かした実践をする。

・地域の人材を活用したり、地域へ出たり、地域の人と連携する取り組みを考える。

自分を振り返ることができる、謙虚で温かい教師

共通理解した事はきちんと守れ、どの子どもに対しても指導できる教師

児童の学力向上を積極的に図る教師

・基礎的・基本的な内容の確実な定着

・指導方法の工夫を積極的に行い、「できる」で満足せず「わかる」授業の創造に努める。

・一人で学ぶ・みんなで学ぶ集団をつくる。

・算数では問題解決学習を推進する。（練り合いの場面を仕組む）

・指導内容の精選と児童が興味・関心を持ち、主体的に参加できる授業

一人一人が常に研修に励み、互いに評価し合う中で、高め合う職場づくりができる教師。

子ども・保護者・地域・同僚から信頼される教師

服務に厳正で、子ども・保護者・地域・同僚から信頼される教師。

メリハリをつけることができる教師

# 生き生き育つ第一の子

## 1 本校の概要

本校は土佐市の中心に位置し、明治以来の歴史と伝統を持った学校である。多くの人材を輩出し、児童は減少しているとはいえ、高岡地区では最も多い児童がいる。ここ数年、国道56号線のバイパスができ、高速道路のICができ、いの町への県道の拡張もあり、交通量は一気に増加し、危険が増し、住民の生活にも変化がでてきた。ビニールハウスが広がる田園地帯は今も変わらない所もあるが、住宅地が増え、昔ながらの市街地は、衰退の傾向にあることは否定できない。

教育熱心な家庭が多い。保護者は学校教育に対して、関心度は高く、熱心で積極的な協力もある反面家庭基盤も弱い家庭も増えている。しかし、地域での人と人とのつながりが希薄になってきている。

## 2 「生き生き育つ第一の子」の育成について

生き生き育つとは、

- ・ まず生活が充実していること。基本的な生活習慣が基本にあり、活力のある子どもを育てたい。
- ・ いま人間関係を作れない、または苦手な子どもが少なからずいる。人とつながり、豊かなかわりをつくり、自分の思いが伝えられる力、自分で判断して主体的に活動させる力を育む。
- ・ 心を育てる。感性豊かで人の気持ちがわかる心やさしい子どもや不合理を見逃さない子どもを育てる。仲間を大切にし、互いに認め合い励まし合う集団づくりを進める。聴く姿勢、待つ姿勢を大切にす。また、規範意識を育て、心のブレーキをかける事ができる子どもを育てる。
- ・ 地域のすばらしい人たちとのかかわりを深める取り組みや中学校・保育・幼稚園の連携を進める。今後は更に、家庭力・地域力を引き出して、共に向き合う関係づくりを進める。

## 3 本年度の取り組みの重点

学力向上の取り組み(わかる楽しい授業づくり)

全教員が公開授業研究に臨み、日々、授業の改善に努める。また、本校では基礎基本を、生きていく上で最低限必要な、どの子どもも共通して身につけねばならない基礎的基本的な内容と捕らえている。

- ・ 基礎学力の定着と「学ぶ楽しさ」を味わう授業実践。
- ・ 少人数指導や等指導法の工夫改善を進め、意欲的な学習を目指す。
- ・ 算数の授業で子ども達が考える場を設定し、算数が好きになる実践を推進する。
- ・ 問題解決学習 投げ入れ教材 問題づくり 練りあいの場を研究・実践する
- ・ 自分の考えを持つ。それを相手にわかるように説明し伝える。かかわり発言ができる。
- ・ 「話し合い活動」や書く活動を日々取り入れ、表現力を育てる。自己評価ができる(算数日記等)
- ・ 「聞く・話す」のステップの取り組みを進め、かかわり発言や練りあう場で生かせるように育てる。
- ・ CRTの向上 ・ チャレンジタイムで計算力の向上や習熟を図る。 ・ 家庭学習の充実。

読書指導の充実

- ・ 学校図書館の活用をはかる。・ 朝読書の充実。読書量を増やす。・ 読書の習慣を身につける。仲間を意識した、班活動や集会活動。

心を育み、社会性、リーダー性を育むために、縦割り班活動に取り組む。集会活動でのかかわり合いを大事にする。また、体育集会では体作りに、音楽集会では生き生きとした声の響きが学校の特徴となっている。これを更に充実させる。

心と体の健やかな成長をめざした支援体制の充実

不登校気味の児童が各学年何人かいるし、これからも新たな子どもが出て来る可能性もある。関係機関とも連携し、早期発見・早期対応を合言葉に校内の支援体制を充実する必要がある。また、子どもの中にはしんどさを表現できない子どももいたり、特別な教育支援を必要とする子どももいる。危機管理を徹底し、安全な学校づくりを推進する

家庭・地域との連携による学校づくり。

家庭と共に「挨拶運動」や「地域安全の取り組み」「食に関すること」等をさらに進めたい。開かれた学校づくりを中心に、保育園・幼稚園、民生委員・児童委員や保護司、地域の方との連携(クラブ活動・昔遊び・花植え・まもり隊・参観日等)を進め、地域とのつながりを密に進める。